

# 震災遺構浪江町立請戸小学校が 伝えたいこと、今後の課題について

浪江町教育委員会 生涯学習課 社会教育係

渡邊 祐典

## 今回発表する内容について

- 現在福島県内唯一の「震災遺構」としての意義
- そもそも「震災遺構」とは？
- 請戸小学校は「奇跡の避難」で知られていますが・・・
- 浪江町としての課題（施設運用・施設維持）

# 福島県内唯一の「震災遺構」としての意義

東日本大震災の地震、そして津波により、浪江町の沿岸部は大きな被害を受けました。請戸地区にあった建物は、ごく一部を除いて、全て津波により流出しました。流出しなかった建物も、津波が屋根の上までかかる全壊の被害を受けています。



# 福島県内唯一の「震災遺構」としての意義

東日本大震災による被害を受けた建物として、今現在も遺る請戸小学校をありのままの形で開放し、当時の記憶と記録、震災の教訓などを伝え、来館者の防災意識の向上に寄与する施設として、令和3年10月に一般公開を開始しました。



# 福島県内唯一の「震災遺構」としての意義

福島県内で令和5年時点唯一の「震災遺構」として、福島県においても「ホープツーリズム」の一環として取り上げる等の効果もあり、開館から総来館者数が12万5000人を超え、諸外国からの来館者も増加傾向にあり、東日本大震災及び原発事故を被災した地域の震災遺構として、国内外からの関心が高まっています。



## そもそも「震災遺構」とは？

大規模地震の被害の大きさ、悲惨さ、教訓などを後世に伝える**被災建物などの構造物**。（中略）これらを後世に残すことで、**大災害の記憶の風化防止、教訓の伝承、慰霊・追悼・鎮魂、防災・減災の啓発**、街づくりの中核施設とする、などの効果が期待される。

（ニッポニカ『日本大百科全書』より引用）

## 「奇跡の避難」で知られていますが・・・

他県でも同様の「震災遺構」として小学校が公開されており  
多くの震災遺構では、当時の児童にも被害が出た事を伝えています。

請戸小学校は、先生・生徒全員が無事に避難できたことから  
「奇跡の避難」の物語として多くの方に知られています。

ですが一方で、請戸地区だけで154人の津波による死傷者がいる事実や  
請戸地区全体で500軒ほどもあった建物が全て失われしまった事実は  
ほとんど知られていません。

## 「奇跡の避難」で知られていますが・・・

避難をした後、家族が亡くなった事を知った子もいます。  
津波が来る前に、危険な場所から一人でも多く避難させようとして  
請戸地区に行ったまま、犠牲になってしまった方も居ます。  
迅速な判断、的確な行動、そして幸運が重なったことで  
無事に避難できたことは確かに「奇跡の避難」ですが、  
決してその美談だけで終わらせてはいけない、恐ろしさ、悲しみ  
も共にありました。



「奇跡の避難」で知られていますが . . .



「奇跡の避難」で知られていますが・・・

避難の話、犠牲者の話、片方だけではなく両方を知ってもらおう。

⇒両方を知ることで、より震災のことを意識してもらえらる。

⇒自分だったらどうする？どうすればよいだらう？

防災について考えるきっかけになる。

請戸小学校が担う“震災遺構”としての役割

「あなたにとっての大平山はどこですか？」

# 浪江町としての課題

震災遺構を運営する中で課題は大きく2点

- 1 施設運用面・・・町が直営することの限界  
伝えることの難しさ、語り部の不足
- 2 施設維持面・・・現在進行形の風化をどう抑えていくか  
今後の施設展示の追加

# 浪江町としての課題（施設運用面）

## ○町が直営することの限界

- ・入館料だけで維持経営していくことは不可能
- ・地方公共団体として営利活動の是非（違法ではないが...）  
⇒民間業者のノウハウを活用（指定管理制度）

## ○伝えることの難しさ、語り部の不足

- ・展示パネルだけでは伝えられない想いをどう伝えるか
- ・会計年度任用職員や、一職員で伝える力には限界がある  
⇒これまで”語り部”として活動されている方との協力関係

## 浪江町としての課題（施設維持面）

○現在進行形の風化、劣化をどう抑えていくか

- ・震災遺構としての保存・補修について
- ・どこまでやるか、どのように保存するかの知見不足
- ・費用の財源はどうするか

○今後の施設展示の追加

- ・震災から13年、震災遺構公開から3年が経過
- ・入館者からの要望にどのように応じていくか
- ・近隣施設との今後の連携

ご清聴ありがとうございました



よろしければ皆様も一度、震災遺構浪江町立請戸小学校にお越しく下さい